

年頭のご挨拶



農業委員長
松永 晋一

明けましておめでとうございませう。皆様にはお健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

七月豪雨で被災された皆様に、心からお見舞い申し上げます。

前年も気象変動の大きな一年となりました。降雪が異常に少なく地域経済に深刻な影響を及ぼしました。

一方、水稲においては、七月の降雨続きで軟弱徒長となり梅雨明け後は、一転高温となり特に出穂期の異常な高温と倒伏の多発により、白未熟粒や胴割れの発生で品質が低下しました。収入保険に加入し不測の事態に備えることの重要性を再度実感した年となりました。

農業委員会研修視察報告

11月18日、農業委員会は群馬県の「川場田園プラザ」道の駅を視察しました。道の駅千曲川については、拡張方針が出されており、農業委員会としても動向を注視しています。新型コロナウイルスの影響が懸念される中ではありましたが、今後の活動に生かすため先進事例の視察を行いました。

川場村は、群馬県の北部地域の沼田市の北10*に位置し、耕地はわずか7%の農山村です。人口は3,647人と少なく、高齢化が進む村です。

【川場の村づくり】

約1万人いた人口が4,000人を切るまでになってしまい、1971年に過疎化地域指定を受けたそうです。人口減少に歯止めをかけ、農業所得の向上を図ろうと、

1. 農業プラス観光（政策）
2. 都市交流事業（世田谷区）
3. 川場田園プラザ事業
4. 木材コンビナート事業

を、1977年（昭和52年）より四十数年、進めているそうです。

野菜はお客様からの要望を聞き、農家に生産を直接お願いしているとのこと。野菜などの出荷の登録人数は四百人ぐらいで、多い人では八百万円の売上げをあげる人もいます。田園プラザは、本通りからは離れた袋小路のような所でした。「よく、こんな所に来るものだ。」と思っていましたが、平日にもかかわらず、関東圏ナンバーの車で駐車場がいっぱいで、私達が帰る頃には、密になるぐらい大勢のお客様であふれていました。

【特産品・施設】

田園プラザで販売されていた特産品や施設について少し紹介したいと思います。お米は『雪ほたか』と銘名されたブランド米ですが、大学の先生に作り方を指導してもらっているようです。なんとこのお米の『むすび』を食べてみなければと思い、「おむすび」の店に行きましたが、大勢の人の列ができていて人気ぶりが伺えました。『むすび』はバスの中で食べました。温かいご飯をにぎったもので、飯山のお米のように美味しかったです。『雪ほたか』は、10kg 7,700円でした。（飯山の道の駅「花の駅・千曲川」で販売されている『幻の米』は5,280円です。）

また、お土産に人気のヨーグルトを飲んでみました。大手メーカーのものとは比べ、トロッと濃い感じで甘酸っぱく、好きな人にはたまらないのだと思いました。白菜も販売していましたが、やや小ぶりです。250円で販売されていました。

田園プラザには、子供の遊ぶところもあり、地ビール・レストラン・そば・パスタ・ラーメン・肉料理・おにぎり等のお食事処が多かったように感じました。

また、地ビール・ヨーグルトはここで生産されています。ブルーベリーがたくさん植えられていて、無料で食べられるそうです。

【プラザの運営】

視察当日は、少し年配の夫婦、平日にもかかわらず小さな子供連れのご夫婦、女性グループが多かったです。都会に住んでいるが、「たまには田舎の景色もいいもんだ。」と感じていらっしやるようでした。休憩に立ち寄るのではなく「長い時間を過ごしてもらい、何度もリピートして来てもらおう。」という運営をしているとのことでした。コロナ禍の中ではありましたが、今回の視察は私にとっては良い勉強になりました。

農業振興係 増山 正一



▲施設の方にお話を聞いているところ



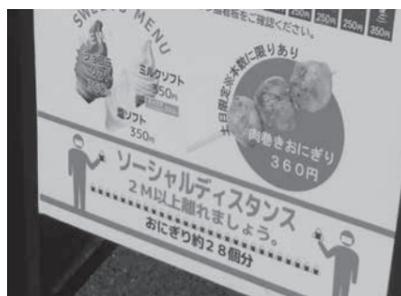
▲平日にもかかわらず車でいっぱい



▲ブランド米『雪ほたか』の販売所



▲美味しい“むすび”の売店



▲2杯って、おにぎり約28個分!?

した。三月ごろより発生した新型コロナウイルスによる移動制限やインバウンドの消滅など、経済活動が大幅に落ち込みました。産業分野でも例外なく、イベントや外食の落ち込みにより、牛肉・花・業務用米を中心に大きな影響を受けています。

管内の主作物である米については、国は消費の減退・業務用米・酒米の需要落ち込みにより在庫が積み上がり、全国で前年より三十万トン減らす必要があるとし、生産目安価を示しました。飯山市へは前年比数量で百七十五トン・面積換算31%が示されました。米価の下げ圧力が強まっているこの時期、皆が協力し、米価を維持していくことが強く求められています。

11月に中韓と初のEPAとなる東アジア地域包括的経済連携（RCEP）に署名し、通常国会で承認を目指しています。環太平洋連携協定（TPP）などに比

べ重要品目への関税の削減や撤廃が除外されていますが、中国や韓国から農産物輸入の増大に注目していく必要があります。今後は、国内農業を維持発展させていく国の施策が望まれます。

農業委員会の重要業務として優良農地の確保と効率的な利用の促進に取り組み、担い手への農地の集積・集約化等、農地の活用を促進することが法令化されています。このため、現在制定されている「一人・農地プランの実質化」の取り組みを、全農業委員会で行うこととなっています。

実質化の第一段階として、各地区再生センターでは農地利用の意向調査を全地区（一地区を除く）で実施しました。今後、耕作者の年齢、後継者の確保状況など地図にして、地域関係者の参加を得て農地の集積や地域づくり方針の話し合いを進めま

農地を活かす

農地を売りたい方、農地を買いたい方
農地を貸したい方、農地を借りたい方



～メリット感もある農業開発公社へお気軽にご相談ください。～

公益財団法人長野県農業開発公社（長野県農地中間管理機構）

電話 本所 026-217-6907 / 北信事業所 0269-22-3111

農業者年金に加入しませんか？

農業者の老後の備えは
国民年金＋農業者年金

加入要件	① 60歳未満の方 ② 国民年金第1号被保険者 ③ 年間60日以上農業に従事している方
------	---



お問い合わせは、農業委員または農業委員会事務局へ

あしあと（11・12月の活動記録）

11月10日	農業委員会役員会
18日	管外視察研修
27日	11月農業委員会総会
12月10日	農地相談
〃	農業委員会役員会
23日	12月農業委員会総会